



# 理科室からこんにちは

～ 親子で理科を楽しもう ～ 平成20年4月11日



## ～ 鳥のさえずり ～

「暖かい春の日差しの中、小鳥たちのさえずりも一段と……」なんて時候の挨拶がぴったりの季節になって来ました（あいにく今朝は雨でしたが）。さて、さえずりを国語辞典で引くと「小鳥が続けて鳴く」（新明解国語辞典：三省堂）と書かれています。でも、理科の世界でいう「さえずり」は、ちょっと違うのです。

理科で言う「さえずり」とは、繁殖期に聞かれるその鳥固有の鳴き方のことを指します。そして、それはオスの鳴く声なのです。メスに対する求愛であったり、他のオスに対する縄張りの主張だったりします。ウグイスの「ホーホーケキョ」やキジの「ケン、ケーン」、ホトトギスの「テッペン カケタカ」が、それにあたります。だから春から初夏にしか聞くことはできないのです。

では、ウグイスは「ホーホーケキョ」以外は鳴かないのでしょうか。そんなことはありません。「チャツ、チャツ、チャツ」とも鳴くのです。それは「地鳴き」と言われます。他の鳥も「ジャツ、ジャツ」とか「キョツ、キョツ」「チュン、チュン」など鳴き、一年中聞くことができる声です。それは威嚇（いかく）であったり警戒であったり、仲間同士のコミュニケーションであったりします。



写真上 地鳴き中のモズ（子育て中）

写真左 さえずり中のキジ（さえずりというには抵抗がありますが）

このように、理科の分野では「さえずり」を明確に他の鳴き声と分けているのです。これは今の季節しか楽しめません。時には窓を開けて、足を止めて、鳥たちの求愛に耳を傾けてみませんか。ちなみに筆者の家の回りでは、毎日キジが元気に鳴いています。彼は「ケン、ケーン」と高らかに鳴いた後に「バドドドド」と大きな音で羽ばたきをしてアピールするのですが、これが毎朝5時台から始まるのです。目覚ましいらすずでよいのですが、正直、辟易している今日この頃です……。

（写真撮影；筆者）